

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は2013年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会申し合わせ事項にて実施する。

2. 練習について

- (1) 練習は第2競技場で行うこと。
- (2) 主競技場（トラックのみ）での練習は次の通りとする。
5日（金） 10時～11時30分
6日（土）7日（日）7時～8時30分
（この時間帯、第2競技場はフィールド専用となるのでトラックは使用できない）
- (3) やり投、円盤投、ハンマー投の練習は主競技場移動後に審判員主任の指示のもとで行うこと。それ以外は次の通りとする。
5日（金）10時～11時30分 ハンマー投専用
6日（土）7時～8時30分 やり投（砲丸投、走幅跳、走高跳も可）
7日（日）7時～8時30分 円盤投（三段跳も可）
- (4) 第2競技場の用器具を追加で利用する際は、ウォームアップ場係に申し出ること。また、使用後は責任を持ってかたづけること。練習に関しても競技役員の指示に従うこと。
- (5) ピストルを使ったスタート練習は禁止する。
- (6) 雨天の場合、雨天走路（フィニッシュ側サイドスタンド下）を開放する。
- (7) 練習会場には、競技者・チームスタッフ・競技役員以外は立ち入らないこと。

3. 招集について

- (1) 招集所は、第2競技場倉庫内に設ける。ただし、棒高跳は現地のピットで行う。
- (2) 招集開始時刻と招集完了時刻は、当該種目の競技開始時刻を基準に、次の通りとする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック種目	30分前	20分前
フィールド種目	70分前	60分前
棒高跳（現地招集）	80分前	70分前

- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものととして処理する。
- (4) 招集所は当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
- (5) 招集の手順
 - ① 招集所で待機し、競技者係の確認を受ける。その際、ナンバーカード・スパイクピン・商標の点検を受ける。
 - ② 800mまでの種目は腰ナンバー標識を2枚受け取る（1500m以上は出発係が配布する）。
 - ③ 代理人による点呼は原則として認めない。2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、招集開始時刻までに「2種目同時出場届」を競技者係に提出すること。2種目同時出場届を提出した場合も、必ず本人または代理人が招集を受けなければならない。
 - ④ リレー競技に出場するチームは、各ラウンドの招集完了時刻の1時間前までにリレーオーダー用紙2枚を競技者係に提出すること。また、決勝においてもオーダーの変更の有無にかかわらず提出すること。
 - ⑤ リレーオーダー用紙提出後の選手変更は原則認めない。ただしリレーオーダー用紙提出後、負傷などの理由によりメンバーを変更する場合のみ選手変更を認める。その場合、医師（医務員）の診断に基づき総務の了承が必要となる。
- (6) ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことができない。
- (7) 2種目同時出場届・リレーオーダー用紙・棄権届は招集所およびインフォメーションセンターで配布する。

4. 棄権について

- (1) 当日棄権は原則として認めない。やむを得ず棄権する場合は、棄権届をインフォメーションセンターを通じて総務に提出して承認を得ること。棄権届には、監督等・競技者本人のサインを記入すること。
- (2) インフォメーションセンターより棄権届の控えを受け取り、招集完了時刻（リレー競技についてはリレーオーダー用紙提出締め切り時刻）までに競技者係に提出すること。

5. 競技者の服装について

- (1) リレー競技は同一のユニフォームを着用すること。色・デザインが統一してあれば、同一のもののみならず。
- (2) ナンバーカードは、地区学連用のものを使用し、胸部・背部に付けること。ただし、跳躍競技は胸部だけでも可とする。
- (3) トラック種目に出場する者は、腰ナンバー標識（2枚）を左右の腰部に明瞭に付けること。
- (4) 1500m以上の腰ナンバー標識は、競技終了後フィニッシュ地点で返却すること。競技者係から配布された腰ナンバー標識は、各自で持ち帰り処分すること。

6. 競技場内への入退場について

- (1) 招集所から、競技者係の指示に従って第1ゲートまたは第4ゲート付近の待機場所へ移動する。待機場所から競技場所への移動は競技役員（総務員）の指示に従うこと。
- (2) 競技終了後は競技役員（総務員）の指示に従い退場する。
- (3) 決勝において1～3位の入賞者は退場後、正面入り口から再入場し、被表彰者控所で待機すること。

7. 競技について

(1) トラック競技について

- ① 不正スタートについては競技規則162条に適用し、不正スタートの責任を有するものは1回で失格とする。なお、スターターの合図は英語で行う。
- ② トラック競技の判定は、すべて写真判定装置（全自動電気計時1/100）で行う。
- ③ 短距離走では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- ④ 5000m以上の競技（競歩を含む）では、気象状況に応じて給水を行う。
- ⑤ 5000m・10000m・10000mWに関しては、制限時間を設ける。各レーススタート後、次に記載している時間の経過時点で、残り1周に達しなかった競技者は、その週のフィニッシュラインで競技を中止させる。

	5000m	10000m	10000mW
男子	17分	34分	49分
女子	19分	40分	59分

- ⑥ 次ラウンドへの同タイム抽選を行う場合、当該競技者または代理人が呼び出しアナウンス後10分を経過しても集合しない場合は、棄権したものとみなす。
- ⑦ 800m, 1500mで最終枠に同タイムが出た場合は、次のラウンドに進出できるものとする。800mで10名になった場合は、9レーンに2名の競技者を配置する。
- ⑧ トラック競技では大型スクリーンを用いた「ライブリザルト」による結果発表を行うことがあるが、「判定中」の途中経過を示しているもので、「正式結果」でないことに注意すること。

(2) フィールド競技について

- ① 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、優勝が決まるまでは下記の通りとする。

		練習	1	2	3	4	5	備考
走高跳	男子	1m85/2m00 /2m10	1m90	1m95	2m00	2m05	2m08	以後 3cm 刻み
	女子	1m40/1m55 /1m70	1m50	1m55	1m60	1m65	1m68	
棒高跳	男子	4m40/4m80	4m40	4m60	4m80	5m00	5m10	以後 10cm 刻み
	女子	2m60/3m50	2m60	2m80	3m00	3m20	3m40	

- ② 悪天候などの不測の事態が発生した場合は、審判長・ヘッドコーチの協議により設定の高さを変更する場合がある。

- ③ 試技者が1人となった場合のバーの上げ方は、本人の希望により決める。
- ④ 棒高跳の支柱位置の申請は、ピット到着後競技役員が受け付ける。
- ⑤ 三段跳の踏切板の位置は、男子13m・女子9mとする。
- ⑥ フィールド種目についての公式練習は2回とする。ただしフィールド審判員主任が時間を考慮した上で変更する場合がある。
- ⑦ 競技場内での練習は競技役員の指示に従うこと。なお、フィールド内でのやりの突き刺しは禁止する。

- (3) 抗議は、競技規則146条に従って定められた時間内に、競技者自身または監督が審判長（本部席の担当総務員に申し出る）に対して口頭で行い、控室で待機する。さらに、この裁定に不服の場合は預託金（1万円）を添え、担当総務員を通じて上訴審判員に文書で申し出る。抗議申立書はインフォメーションセンターで配布する。

8. 助力について

競技者に対する助力は、競技規則144条に従う。競技中、競技場内で、助力を与えたり受けたりしている競技者は、審判長によって警告され、さらに助力を繰り返すとその競技者は失格になるということを勧告される。フィールド競技に関しては競技役員の許可のもとコーチ席のコーチとコミュニケーションをとることができるが（競技区域内から）、競技役員の指示に従わない場合は助力を受けたとみなす。

9. 競技用器具について

競技に使用する用器具は棒高跳用ポール以外、すべて主催者が用意したものを使用しなければならない。ただし、やり投のやりは借り上げ（持ち込み）を認める。希望者は競技開始1時間前までにインフォメーションセンターに申し出る。ただし、検査に合格したものは預かり証を発行の上、一括借り上げし、参加競技者で共有できるものとする。競技終了後にインフォメーションセンターで返却する。

10. 開閉会式・表彰について

- (1) 各種目3位までに入賞した競技者は表彰を行う。競技終了後、玄関ロビーの被表彰者控所に集合すること。表彰を受ける際は、上は各大学のユニフォーム、下は各大学のジャージを着用すること。
- (2) 各種目4～8位に入賞した競技者の賞状は、正式発表30分以降に被表彰者控所で受け取ること。
- (3) 開閉会式は、開式10分前に部旗を持った旗手を先頭に整列すること。
- (4) 各種目の対校得点は下記の通りとする。

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
対校得点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

- (5) 総合得点が同点の場合は、優勝種目数の多い学校を上位とする。優勝種目数が同じ場合は、2位種目、3位～6位種目の各々を比較し、より多い学校を上位とする。

11. ドーピングコントロールテストについて

- (1) ドーピングコントロールテストは、日本アンチドーピング機構および日本陸上競技連盟の規定に従い実施する。ドーピングコントロールテストを指示された競技者は、競技役員の指示に従ってテストを受けること。
- (2) ドーピング検査対象者が未成年の場合は必ず成人したものが付き添うこと。

12. 一般注意事項

- (1) 本大会の医務活動は、スリーステーション制を採用する。メディカルステーション（医務室）、スタジアム救護ステーション（フィニッシュ付近の部屋）は、応急処置および負傷者の診断（リレー種目）のみ行う。競技者のコンディショニング活動はウォームアップ場のトレーナーステーションで行う。
- (2) 大会期間中、競技場で発生した傷害や疾病は応急処置を行うが、その後の責任は負わない。
- (3) 更衣は第2陸上競技場およびメインスタンド下の男子・女子更衣室を利用することができる。ただし、貴重品は各自で保管すること。紛失、盗難に関して主催者側は一切の責任を負わない。
- (4) 大会期間中に主催者に届けられた物品（遺失物）については、一時的にインフォメーションセンターにて保管する。
- (5) 記録証の交付を希望する競技者は、インフォメーションセンターに記録証交付願および交付料金500円を添えて申し込むこと。

- (6) 記録は正面玄関 2 F の記録掲示板に掲示する。
- (7) 2 日目 (6 日), 3 日目 (7 日) は大塚製薬工場の第 1, 第 2, 第 9 駐車場が利用できる。
大塚製薬工場のご厚意により使用させていただくので, 使用に関してはくれぐれもマナーを守ること。
- (8) 競技場は常に清潔保持に努め, ゴミ等は各自で必ず持ち帰り処分すること。
- (9) 集団応援はサイドスタンドとし, メインスタンドでは禁止する。なお, フィールド種目競技中の間は, 連呼応援を止めるなど, フィールド競技の進行に配慮すること。
- (10) バックスタントは棒高跳びのコーチのみ使用を認める。使用する際は大会本部が発行する ID カードを必ず身につけること (バックスタントの入り方はインフォメーションセンターで確認すること)。
- (11) 不正スタート防止対策および改修工事のため通行規制を実施するので, 競技役員の指示に従うこと。
- (12) 主催者の許可なく競技場内の電源を使用することを禁止する。
- (13) その他, 不明な点は, インフォメーションセンターに問い合わせること。